

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和4年3月16日

報告番号 乙	第357号	氏名	岩永英之
審査員	主査(自署)	原 英 夫	
	副査(自署)	阿部 晋也	
	副査(自署)	吉田 浩 樹	
論文題名	題名 Correlation between Post-Acute Electroconvulsive Therapy Alpha-Band Spectrum Power Increase and Improvement of Psychiatric Symptoms 雑誌名, 巻(号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Journal of Personalized Medicine, 11(12), 1315. https://doi.org/10.3390/jpm11121315 , 2021		
論文審査結果の要旨	<p>電気けいれん療法(ECT)に関する定量的脳波(qEEG)研究の結果には一貫性がなく, ECTの効果を示す指標は明確には特定されていない。本研究では, ECTコースの前後にqEEGを測定することで, ECTの治療効果の指標として利用できるかどうかを検討した。</p> <p>統合失調症, 気分障害, その他の精神疾患の患者18名を対象に, 急性期ECTの前後のqEEGデータを解析した。qEEGデータを処理し, ECTの前後で取得したデータ間のパワースペクトル値を比較した。結果: ECT後のパワースペクトル値はdelta, theta, alphaの各帯域で有意に増加した。急性期ECT後のalpha波域のパワースペクトル値の増加とBrief Psychiatric Rating Scaleスコアの改善との間には強い有意な相関が認められた。今回の研究は, 統合失調症などの急性期ECTを必要とする病態では, 急性期ECTの前後でalpha波域のパワースペクトル値を比較することで, 臨床的な改善度を十分に評価できることを示していると考えられる。これまでの研究でECT前後のalpha波域の活動に不一致が見られたのは, 脳波解析の時期の違いや診断の不均一性に起因すると考えられる。精神疾患では, alpha波域のパワースペクトル値が精神病患者とそうでない患者で異なるようであり, 治療反応性の予測に利用できる可能性がある。</p> <p>以上の成績は, 視覚や聴覚の感覚入力及び情動の安定性と, 身体動揺との関係について, 新しい知見を加えたものであり, 意義あるものと考えられる。よって本論文は, 博士(医学)の学位論文として価値あるものと認められた。</p>		
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>精神疾患の患者に対する電気けいれん療法(ECT)と定量的脳波(qEEG)の関連に関し, 種々質問を行い, 特にECT後のパワースペクトル値について詳しい説明を求めたが, いずれについても満足すべき答弁を得た。また, 専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し, かつ, 研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが, 外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。よって, 審査員合議のうえ, 本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
			合格
論文審査日	令和4年3月16日	学力の確認日	令和4年3月16日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和4年3月15日

報告番号 乙	第358号	氏名	小野剛史
審査員	主査(自署)	松尾泉明	
	副査(自署)	宮本比呂志	
	副査(自署)	宮本新入	
論文題名	<p>題名 Continuous amnioinfusion for treatment of mid-trimester preterm premature rupture of membranes with oligoamnios 雑誌名, 巻(号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 JOURNAL OF Obstetrics and Gynaecology Research, 46(1), 79-86, 2020</p>		
論文審査結果の要旨	<p>本論文は、妊娠中期前期破水による羊水過少例に対し経腹的人工羊水持続灌流法(TA)を施行することで、羊水量を維持した妊娠延長が可能であるか否かについて検討したものである。 従来管理群 14 例と、TA 施行群 14 例で、主要評価項目として前期破水から分娩までの日数を、副次評価項目として前期破水から分娩までの期間で正常羊水量を保てた割合、母体・児の周産期予後を比較した。TA 施行群は従来管理群に比べて、投与抗菌薬の種類にかかわらず前期破水から分娩までの日数を延長させ、分娩に対するハザード比と 95%信頼区間は 0.20 (0.05-0.65)であった。前期破水から分娩までの期間で正常羊水量を保てた割合は、TA 施行群と従来管理群で各々75.5%、12.5%であり抗菌薬の種類にかかわらず P=0.016 と有意差を認めた。周産期予後は、各疾患については両群間に有意差を認めなかったが、周産期死亡率または主要新生児疾患罹患率としては減少傾向を認め、発症率が半減していた。 以上の成績は、妊娠中期前期破水による羊水過少例に対する TA により、羊水量を維持した妊娠延長が可能で、周産期予後の改善につながる可能性を示したものであり、意義あるものと考えられる。 よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。 周産期医学に関し、種々質問を行い、特に妊娠管理における問題について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。 また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。 外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。 よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格 不合格	学力の確認の結果	合格 不合格
論文審査日	令和4年3月15日	学力の確認日	令和4年3月15日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和4年3月30日

報告番号 乙	第359号	氏名	河田望美
審査員	主査(自署)	江崎 幹宏	
	副査(自署)	尾崎 宏太	
	副査(自署)	寺田 伸一	
論文題名	題名 FIB-4 index-based surveillance for advanced liver fibrosis in diabetes patients 雑誌名, 巻(号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Diabetology International, 12, pages118-125, 2021		
論文審査 結果の要旨	<p>糖尿病患者における簡便かつ信頼性の高い肝線維化診断法がないことから、本論文では糖尿病患者の肝線維化診断に対する FIB-4 index の有用性を検討した。2015年4月から6月に佐賀大学医学部附属病院を受診した糖尿病ないし糖尿病予備軍の1091名の外来患者のうち除外基準に合致した症例を除く671例を対象とした。このうち、肝臓の画像評価がなされた242例において、脂肪肝、肝硬変、肝細胞癌を定義し、FIB-4 Index との関連を検討した。その結果、FIB-4 Index 高値例(≥ 2.67)では肝硬変、肝細胞癌の有病率は42.9%、14.3%と高く、FIB-4 Index 中間値例($\geq 1.3, < 2.67$)の1.2%、0.8%、低値例(≤ 1.3)の1.2%、0%と比較して有意差を認めた。またROC解析から肝硬変ないし肝細胞癌診断に最適なカットオフ値は2.96と推測された。なお、画像評価がされていない429例では本カットオフ値を用いた場合、7%の症例が肝硬変ないし肝細胞癌を有すると推計された。</p> <p>以上の成績は、糖尿病診療における肝硬変、肝細胞癌スクリーニング法としてのFIB-4 Index の有用性を示唆したものであり、糖尿病診療に関する新たな知見を加えたものであり、意義あるものと考えた。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>論文内容およびこれに関連した事項に関し種々質問を行い、特に血糖コントロールが肝線維化に与える影響について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格	<input type="checkbox"/> 不合格	学力の確認の結果
論文審査日	令和4年3月30日	学力の確認日	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格
			令和4年3月30日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和 4 年 4 月 5 日

報告番号 乙	第360号	氏名	凌太郎
審査員	主査(自署)	吾木 久	
	副査(自署)	相島 慎一	
	副査(自署)	甲斐 敏夫	
論文題名	題名 Merkel cell carcinoma: A systematic review of the demographic and clinical characteristics of 847 cases in Japan 雑誌名, 巻(号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 The Journal of Dermatology, vol.48, 1027-1034, 2021		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文の目的は、稀ながら悪性度の高い皮膚原発の神経内分泌癌であるメルケル細胞癌(MCC)の本邦における実態的統計調査である。</p> <p>PubMed、医学中央雑誌を用いて1985年から2015年までに報告されたMCCを847例抽出し、項目毎に集計し統計的検討を行った。</p> <p>患者平均年齢は77.5歳、男女比は1:1.6であった。部位では63.0%が頭頸部に発症し、腫瘍サイズは平均2.79cmであった。有棘細胞癌、ボーエン病などの合併は、病理組織学的検査が行われた611例のうち14.2%であった。皮下型は31例認められ、男女差は見られなかった。原発不明の結節性病変は19例に認められ、平均年齢77.7歳で男女差は見られなかった。自然消退は評価可能な640例中58例(9.1%)に認められ、男女比は1:2.1であった。メルケル細胞ポリオーマウイルス検査症例180例中31.1%で陽性であった。</p> <p>統計的検討の結果、日本におけるMCCは、西欧諸国と比較し、発症率、男女比をはじめ、皮下型頻度、分化パターン及び自然消退症例が異なることが判明した。</p> <p>以上の成績は、日本におけるメルケル細胞癌の実態的統計として、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>皮膚科学に関して種々質問を行い、特にメルケル細胞癌について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
			合格
論文審査日	令和4年4月5日	学力の確認日	令和4年4月5日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和4年3月30日

報告番号 乙	第361号	氏名	角南隆史		
審査員	主査(自署)	田中恵太郎			
	副査(自署)	市場正良			
	副査(自署)	高橋宏和			
論文題名	<p>題名 A Randomized Controlled Trial of the Web-Based Drinking Diary Program for Problem Drinking in Multi Workplace Settings 雑誌名, 巻(号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Journal of Occupational Health, Volume64, Issue1 January/December 2022 e12312 https://doi.org/10.1002/1348-9585.12312</p>				
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、職域において飲酒問題を抱える労働者に対して、日々の飲酒量を記録するオンライン簡易介入プログラム(著者が開発)を実施し、その効果について述べている。研究方法は、アルコール使用障害識別テスト(AUDIT)のスコアが8点以上の労働者100名を無作為に介入群(50名)と対照群(50名)に割り付ける無作為化対照試験で、介入群は4週間にわたって上記プログラムによる介入を受け、8週後と12週後にベースライン時からの飲酒習慣の変化に関する評価が行われた。</p> <p>これによると、2つの主要アウトカム(休肝日日数、総飲酒量)と副次的アウトカム(AUDITスコア)について、二群間で変化量に有意差が見られた(それぞれ$P=0.04, 0.02, 0.03$)。12週後の時点で、介入群は対照群に比べて、休肝日日数の増加が大きく(Hedges' g 0.43; 95%CI 0.03-0.83)、一週間あたりの総飲酒量の減少が大きく(0.53; 0.13-0.93)、Auditスコアの減少が大きかった(0.44; 0.04-0.84)。飲酒日一日あたりの飲酒量の変化に両群で有意差は見られなかった。</p> <p>以上の成績は、職域において飲酒問題を抱える労働者に対して、上記の介入プログラムが有効である事を示唆した結果であり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>				
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>問題飲酒についての精神医学に関し、種々質問を行い、特にその対処方法について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>				
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	不合格	学力の確認の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	不合格
論文審査日	令和4年3月30日		学力の確認日	令和4年3月30日	

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和4年5月6日

報告番号 乙	第362号	氏名	山口尊則		
審査員	主査(自署)	藤原啓司			
	副査(自署)	青木 義 久			
	副査(自署)	阿部 誠一 郎			
論文題名	題名 Atrial Structural Remodeling in Patients with Atrial Fibrillation is a Diffuse Fibrotic Process: Evidence from high-density voltage mapping and atrial biopsy 雑誌名, 巻(号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 J Am Heart Assoc. 11: 1-16, 2022.				
論文審査 結果の要旨	<p>従来、心房細動(AF)患者の心房内低電圧領域(LVA)は、心房の局所的な線維化に起因するとされ術中マッピングにより同部を同定しアブレーションを追加することがAFアブレーション後の再発予防に繋がるとされてきた。一方、AF剖検例の検討では心房の線維化は、局所に留まらず散在するとの報告もある。本研究では、AF患者の左房電位波高の測定と心房筋生検による組織学的評価を行い、LVAが左房の局所的な線維化ではなく左房全体のびまん性remodelingによる電位波高低下を反映するものであるということを検証した。</p> <p>対象は、アブレーションを行ったAF患者140例で対照群として左側副伝導路患者13例に同様の検討を行った。電位評価法として、右房ペーシング下にグリット型電極を用いて左房全体の電位波高(VGLA)と左房を6つの解剖学的領域に分割し各領域電位波高(VRLA)をそれぞれ測定した。LVAの存在は0.1、0.5、1.0、1.5 mVのカットオフ値で評価した。</p> <p>結果、AF患者のVGLAは、カテゴリー別にQ1(<4.2 mV)、Q2(4.2-5.6 mV)、Q3(5.7-7.0 mV)、Q4(≥ 7.1 mV)に分類され、どの解剖学的領域でもVRLAは、VGLAの減少に伴い均等に減少した。また、電位波高低下が軽度であるQ4カテゴリーではVGLA、VRLAともに対照群との差は認めなかった。LVAの存在率も、どの電位波高カットオフ値を用いてもVGLAの減少に伴って増加した。28例に心筋生検を行い生検部位の電位波高(Vbiopsy)と線維化の程度を定量化したところ、VbiopsyとVGLAは正の相関を示し線維化率は、$11 \pm 6\%$であった。加えて、同線維化率は、VbiopsyとVGLAの両方と逆相関を示した。以上の結果から、LVAの存在は、左房のびまん性電位波高の低下を反映しており、線維化を伴うびまん性remodelingのプロセスであると考えられた。</p> <p>以上の成績は、AF患者に対するアブレーション戦略に対して新しい知見を加えてものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>				
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問によって行った。</p> <p>論文内容及びこれに関連した事項に関して種々の質問を行い、特に本検証結果が今後のAFアブレーション治療に与える影響について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上に学力があるものと判定した。</p>				
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果	合格	不合格
論文審査日	令和4年5月6日		学力の確認日	令和4年5月6日	

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和4年8月17日

報告番号 乙	第363号	氏名	青木早織
審査員	主査(自署)	吉田裕樹	
	副査(自署)	松山正信	
	副査(自署)	出原真希	
論文題名	<p>題名 Aberrant hypomethylation at imprinted differentially methylated regions is involved in biparental placental mesenchymal dysplasia 雑誌名, 巻(号のみの雑誌は号), 頁-頁, 発行西暦年 Clinical Epigenetics, 14:64, 2022</p>		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、間葉性異形成胎盤(Placental mesenchymal dysplasia:PMD)の発生原因、特にインプリンティング異常との関連性について述べている。 これによると、PMD胎盤検体から肉眼的正常部と肉眼的PMD部の核酸を抽出し、マイクロアレイとshort tandem repeatで遺伝型を解析した。次いで、インプリントDMR(Differentially Methylated Region)のDNAメチル化を解析した。異常低メチル化を示したDMRに関連するインプリント遺伝子のアレリックな発現をRT-PCRで解析した。約35%の肉眼的PMD切片が両親性PMDを示し、残りはABM(androgenetic/biparental mosaicism)を示した。メチル化解析では、ABMでは父性エピジェノタイプを示したが、両親性PMDでは7ヶ所の胎盤特異的DMRと5ヶ所のユビキタスDMRが高頻度に低メチル化していた。低メチル化を示した胎盤特異的DMRに関連するインプリント遺伝子は両アレル発現していた。 以上の成績は、受精後に生じた特定のインプリントDMRの低メチル化、特に胎盤特異的DMRの低メチル化が両親性PMDの発症に関与することを示しており、間葉性異形成胎盤の発生原因について新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。 よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。 遺伝学・エピジェネティクスに関し、種々質問を行い、特にインプリンティング異常と疾患との関連について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。 また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。 外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。 よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
			合格
論文審査日	令和4年8月17日	学力の確認日	令和4年8月17日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和5年 / 月3 / 日

報告番号 乙	第364号	氏名	平田理紗
審査員	主査(自署)	平田理紗	
	副査(自署)	高橋 宏和	
	副査(自署)	原 めぐみ	
論文題名	題名 History of falls and Bedriddenness ranks are useful predictive factors for in-hospital falls: a single-center retrospective observational study using the Saga fall risk model 雑誌名, 巻(号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 International Journal of General Medicine, 15・8121-8131・2022		
論文審査 結果の要旨	<p>本論文は、筆者らの研究チームが過去に年齢、性別、緊急入院、診療科、眠剤使用歴、転倒歴、食事摂取の自立、寝たきり度の8項目を用いた院内転倒予測モデルを検証した結果、脳外科への入院、転倒歴、寝たきり度のみが転倒と有意な関連を示したと言う結果を得ている。本研究はこれらの3項目と転倒との関連について異なる集団で検証したものである。単施設後ろ向き研究を急性期病院において行ったところ2,932例が抽出され、95例(3.2%)が転倒した。年齢の中央値は79歳、男性が49.9%であった。多変量解析では転倒歴あり(p=0.010)、寝たきり度(A,B:p<0.001,C:p=0.005)が有意に転倒と関連し、脳外科への入院は転倒と有意な関連を示さなかった(p=0.219)。今回の検証で異なる集団においても転倒歴と寝たきり度は転倒予測に有用と認められた。転倒の予測因子の詳細な解明は臨床的にも有益であり、本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の 結果の要旨	<p>最終試験において、各審査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	<input checked="" type="radio"/> 合格	<input type="radio"/> 不合格	学力の確認の結果
論文審査日	令和5年1月31日	学力の確認日	<input checked="" type="radio"/> 合格
			<input type="radio"/> 不合格
			令和5年1月31日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和5年3月1日

報告番号 乙	第365号	氏名	鈴木源晟
審査員	主査(自署)	城戸 瑞花	
	副査(自署)	手不 致入	
	副査(自署)	相島 慎一	
論文題名	<p>題名 Presence of the annular ridge and location of the coronary sinus ostium as morphological features of the right atrium and interatrial septum in healthy common marmosets (<i>Callithrix jacchus</i>) 雑誌名, 巻(号のみの雑誌は号), 頁一頁, 発行西暦年 Experimental Animals, 69(3), 295-305, 2020</p>		
論文審査結果の要旨	<p>小型の霊長類でヒトにより近い実験動物と位置付けられるかコモンマーモセットの心臓の形態、なかでも右心房と心房中隔に関する形態的な評価を目的とし研究を行った。9 から 65 ヶ月齢の雄雌 13 匹のコモンマーモセットから得た心臓標本のうち、10 個の心臓標本の右心房内部を実体顕微鏡下で、また 3 個の心臓を組織学的に評価した。</p> <p>コモンマーモセットには、ヒトには存在しない右心房と心房中隔にわたる環状の稜が存在した。他の動物ではこの稜についての報告はない。この稜は、通常的心臓の弁の組織構造とは異なり、心房の心筋線維に類似していた。また、冠状静脈洞開口部は、環状の稜の一部に隣接して存在し、ヒトとは異なる位置であった。</p> <p>よって、コモンマーモセットの心臓では、この環状の稜が上大静脈口、下大静脈口および冠状静脈 洞の弁として機能する可能性がある。</p> <p>以上は、コモンマーモセットの右心房内にはヒトや他の動物でも見いだされていない弁様構造が存在することを示したものであり、実験動物として用いる際の新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。 よって本論文は、博士(医学)の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。 形態学的な所見に関し、種々質問を行い、特にコモンマーモセットを用いた動物実験の意義等について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。 また、専攻学術分野において大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同等以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。 外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。 よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
			合格
論文審査日	令和5年3月1日	学力の確認日	令和5年3月 /日

学位論文審査及び学力の確認の結果等報告書

令和5年3月2日

報告番号 乙	第366号	氏名	竹内 耕治
審査員	主査(自署)	木村 晋也	
	副査(自署)	高倉 尚子	
	副査(自署)	田本 孝一 (野出)	
論文題名	題名 Antihypertensive Drug Combinations Modify Cisplatin-induced Acute Kidney Injury. <i>In Vivo</i> ,36(3), 1391-1396, 2022		
論文審査結果の要旨	<p>本論文は、シスプラチン (CDDP) 併用によるカルシウム チャネル遮断薬 (CCB) およびレニン-アンギオテンシン系 (RAS) 阻害薬などの降圧薬の腎毒性について述べている。</p> <p>降圧薬の組み合わせが CDDP 関連の急性腎障害 (AKI) と関連しているかどうかを、日本の医薬品有害事象報告データベースを使用して調査した。2004年から2020年までのデータベース内の544,864件の報告を分析し、潜在的な交絡因子を調整した報告オッズ比 (ROR) と信頼区間 (CI) を、各薬物および薬物と薬物の併用について AKI について計算している。結果は、CDDP、CCB、RAS 阻害剤はすべて AKI のリスク因子として検出された。CCB、RAS 阻害剤、CDDP を併用した場合の ROR) は、それぞれの薬剤を単独で使用した場合よりも高かった。CCB や RAS 阻害剤服用がん患者では、CDDP 投与時には、より AKI に注意を払う必要があると結論している。</p> <p>以上の成績は、について、新しい知見を加えたものであり、意義あるものと考えられる。</p> <p>よって本論文は、博士 (医学) の学位論文として価値あるものと認めた。</p>		
学力の確認の結果の要旨	<p>学力の確認は口頭試問により行った。</p> <p>臨床腫瘍学および臨床薬理学に関し、種々質問を行い、特に腎障害について詳しい説明を求めたが、いずれについても満足すべき答弁を得た。</p> <p>また、専攻学術に関しても大学院博士課程を終えて学位を授与される者と同程度以上の学識を有し、かつ、研究指導する能力も十分であることを認めた。</p> <p>外国語は英語について試問を行ったが、外国語文献を自由に利用しうる能力があることを認めた。</p> <p>よって、審査員合議のうえ、本研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力があるものと判定した。</p>		
論文審査の結果	合格	不合格	学力の確認の結果
			合格
論文審査日	令和5年3月2日	学力の確認日	令和5年3月2日